
2010年度 決算説明会

2011年 5月19日

この度の東日本大震災におきまして、
被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。
皆さまの安全と被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

<当社グループにおける震災の影響について>

<オンサイトカンパニー鹿島工場>

地震により製鉄所全停。これにより当社プラントも全機停止。当社の被害は軽微、3月15日には点検を終了、運転可能な状況へ。製鉄所の操業再開に合わせ順次稼働、順調に推移。6月初めには平常操業の見込み。

<福島液酸VSU>

地震によりプラント停止。8月初めより稼働再開。現在、宇都宮、新潟各プラントからバックアップ供給。

<ケミカルカンパニー鹿島工場>

ガス精製関連はコークス炉の稼働再開に伴い、4月18日までに立上げ完了。6月末に向け、順次操業度アップ中。

<日本海水 小名浜工場>

地震・津波被害により、製塩設備ほか、全工場停止中。操業再開まで相当の時間がかかる見通し。赤穂・讃岐両工場にて緊急増産対応を継続中。

<相模ハム 白河工場>

地震並びに停電により操業停止。3月28日に操業再開。水の放射能検査を実施、製品の安全性を確認済。

<エア・ウォーター食品物流>

津波により運送車両及び設備に被害。5月から概ね平常操業。

<東日本エア・ウォーター・エネルギー>

LPガスの仙台、いわきの民生用顧客に被害甚大。供給体制は5月中に正常化。

産業向けビジネス全般に需要回復で売上・利益増加
 景気変動に強い生活関連ビジネスが安定して収益拡大
 売上高・営業利益ともに前年を上回り、持分法利益拡大で経常利益増加
 当期純利益は震災関連ほか特別損失増加により前年を下回る

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	前年比増減 (伸び率)
売上高	4,264	4,718	+455 (110.7%)
営業利益	282	313	+ 31 (110.9%)
経常利益	290	330	+ 39 (113.6%)
当期純利益	139	117	- 22 (83.9%)

自己資本	1,531	1,576	+ 45 (102.9%)
総資産	3,928	4,076	+149 (103.8%)

営業利益率	6.6%	6.6%
経常利益率	6.8%	7.0%
R O E	9.7%	7.5%
E P S	73.64円	61.24円
自己資本比率	39.0%	38.7%

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	前年比
産業ガス	1,314	1,309	99.6%
エレクトロニクス	258	489	189.0%
ケミカル	669	785	117.4%
医療	624	669	107.2%
エネルギー	432	476	110.1%
その他	967	992	102.6%
合計	4,264	4,718	110.7%

主な売上高増減要因
<ul style="list-style-type: none"> ・産業ガス需要、大口製造業中心に回復続く ・前年に大型工事物件の特需、これを除けば大幅増収
<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料専門商社「井上喜」の新規連結 ・FPD堅調で数量増、太陽電池向け特殊ガス数量増
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄鋼の操業回復でコークス炉ガス処理量増加 ・粗ベンゼン販売数量増 ・電材向けファインケミカル数量増
<ul style="list-style-type: none"> ・医療用酸素・ヘリウム数量増 ・医療機器拡販 ・SPD・滅菌 新規取引病院増加 ・美和医療を新規連結
<ul style="list-style-type: none"> ・原油・CP価格上昇による灯油ならびにLPガス販価上昇 ・灯油の直販顧客数増加
<ul style="list-style-type: none"> ・食品物流事業で新規取引増加、一般貨物荷扱量増加 ・ヒーター用マグ、PDP用マグ、セラミック製品、増販
—

(単位:億円)

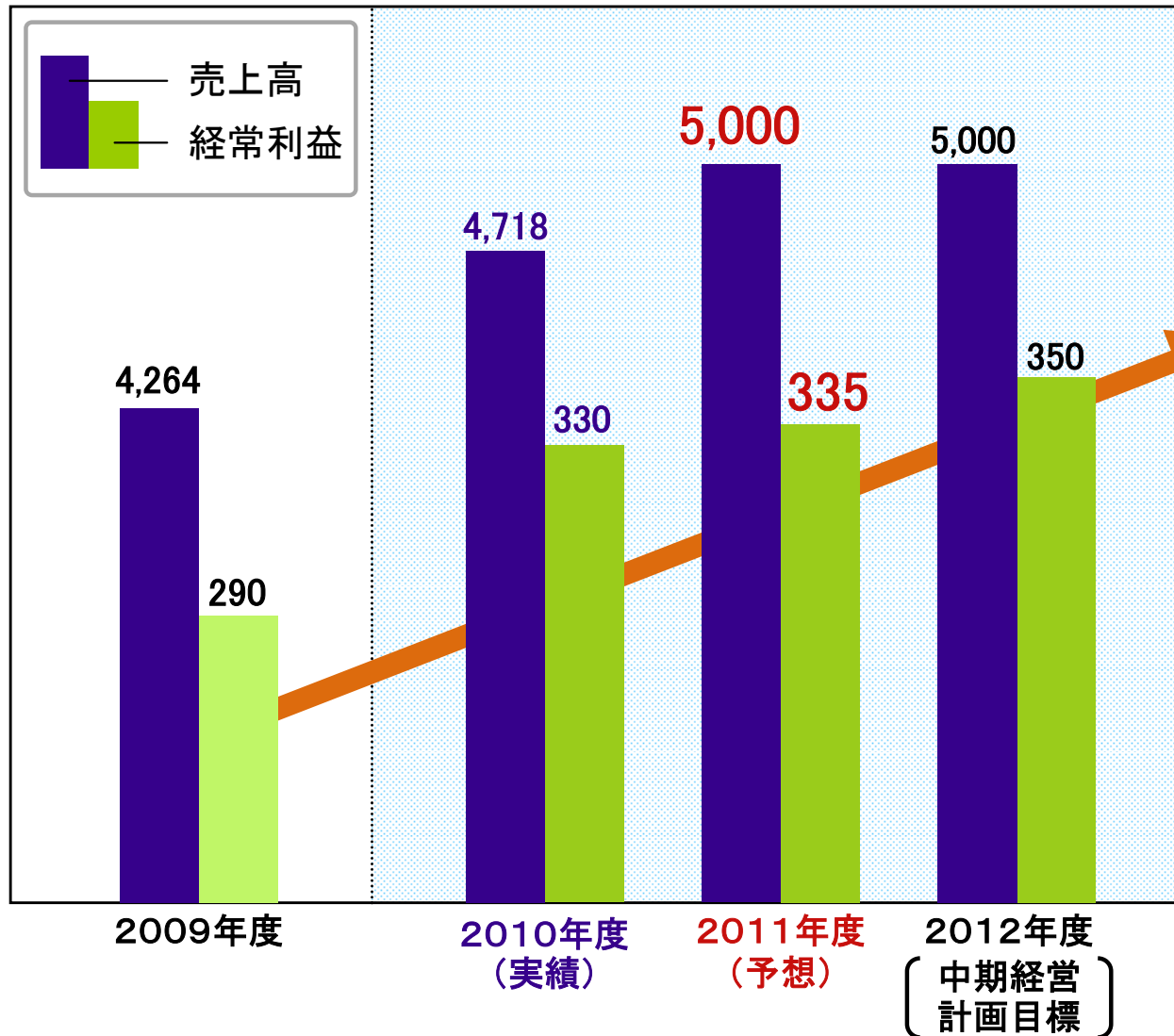
	2009年度	2010年度	前年比
産業ガス	137	134	98.1%
エレクトロニクス	25	36	141.8%
ケミカル	21	34	161.2%
医療	32	44	136.1%
エネルギー	29	27	94.6%
その他	44	54	121.2%
(調整額)	2	1	46.8%
合計	290	330	113.6%

主な経常利益増減要因
<ul style="list-style-type: none"> ・高炉オンサイト数量増、操業改善 ・VSU全機フル稼働 ・前年の設備工事の特需分が大幅減少
<ul style="list-style-type: none"> ・太陽電池向け特殊ガスの売上増 ・次世代半導体向け・LED向けケミカル材料好調
<ul style="list-style-type: none"> ・粗ベンゼン売上増、ガス精製合理化効果 ・ニードルコークス回復で、シーケム持分法利益増加
<ul style="list-style-type: none"> ・医療用ガス売上増、VSU効果 ・医療サービス効率化 ・医療機器売上増 ・美和医療の新規連結
<ul style="list-style-type: none"> ・高温気象の影響と使い控えによる販売数量減
<ul style="list-style-type: none"> ・塩事業、売上増、燃料調達の効率化などコスト改善 ・電磁鋼板用マグ価格改定ならびにコスト改善
—
—

2011年度 通期連結業績予想

震災の影響を克服し、成長軌道を堅持

(単位:億円)



NEXT-2020
1兆円実現へ

<産業ガス関連>

商慣習改革、物流合理化、M&Aによる地域密着の直販拡大を通じた地域事業の収益力強化

<エレクトロニクス関連>

国内外パートナーとの協業により、特殊材料分野の拡大、成長分野を牽引役とする収益力向上を推進

<ケミカル関連>

コールケミカルの安定収益をベースに、
電子材料向け、農薬向けの海外生産拠点の確立・強化により、ファインケミカル事業の拡大を加速

<医療関連>

医療ガスをベースに医療サービス事業の収益向上と高度医療分野でのリーディングの強化

<エネルギー関連>

LPG供給事業からエネルギーソリューション事業の転換、東北・関東市場で事業拡大

<物流事業>

独自の定温技術、定評ある高品質物流に車両架装技術を加え、高い提案力で食品・3PL物流を全国展開

国内製造業は、予想以上のスピードで生産活動の再開が進み、産業ガス需要は上期後半から下期にかけて震災前の水準に復帰。

復興需要への積極的な対応、ねずみ集団の着実な成長により、安定成長を堅持。

(単位:億円)

	2010年度	2011年度(予想)	2010年度対比	
			増減	伸び率
売上高	4,718	5,000	+282	106.0%
営業利益	313	320	+7	102.3%
経常利益	330	335	+5	101.6%
当期純利益	117	175	+58	149.8%
自己資本	1,576	1,735	+159	110.1%
総資産	4,076	4,167	+90	102.2%
営業利益率	6.6%	6.4%		
経常利益率	7.0%	6.7%		
ROE	7.5%	10.6%		
EPS	61.24円	91.26円		
自己資本比率	38.7%	41.6%		

<VSUネットワークと今次災害でのガス供給>

<福島液酸VSU>

東北向けガス供給の主要拠点(震災により停止)

<新潟液酸VSU>

今次災害のバックアップ前線基地

<しなの液酸VSU>

2011年3月に稼働開始

<三国液酸VSU>

<東海液酸VSU>

震災により主要輸送路が通行不可に

<宇都宮工場 大型ASU>

関東・東北向けガス供給の主要拠点

■VSUネットワークが災害で発揮した機能

- ①生産拠点(量)の確保
- ②物流ルート of 確保

新潟液酸VSUによるバックアップ供給

- 寸断された輸送路を回避し、西日本各拠点から、液化ガスを新潟液酸に集結
- 新潟液酸を前線基地として、被災地までピストン輸送
- 被災地では自社インフラを通じて、全顧客への供給体制を確保

西日本の各拠点で生産した液化ガスを、東海液酸VSU、三国液酸VSUを經由してバックアップ供給

<東日本大震災での対応>

エア・ウォーターグループ

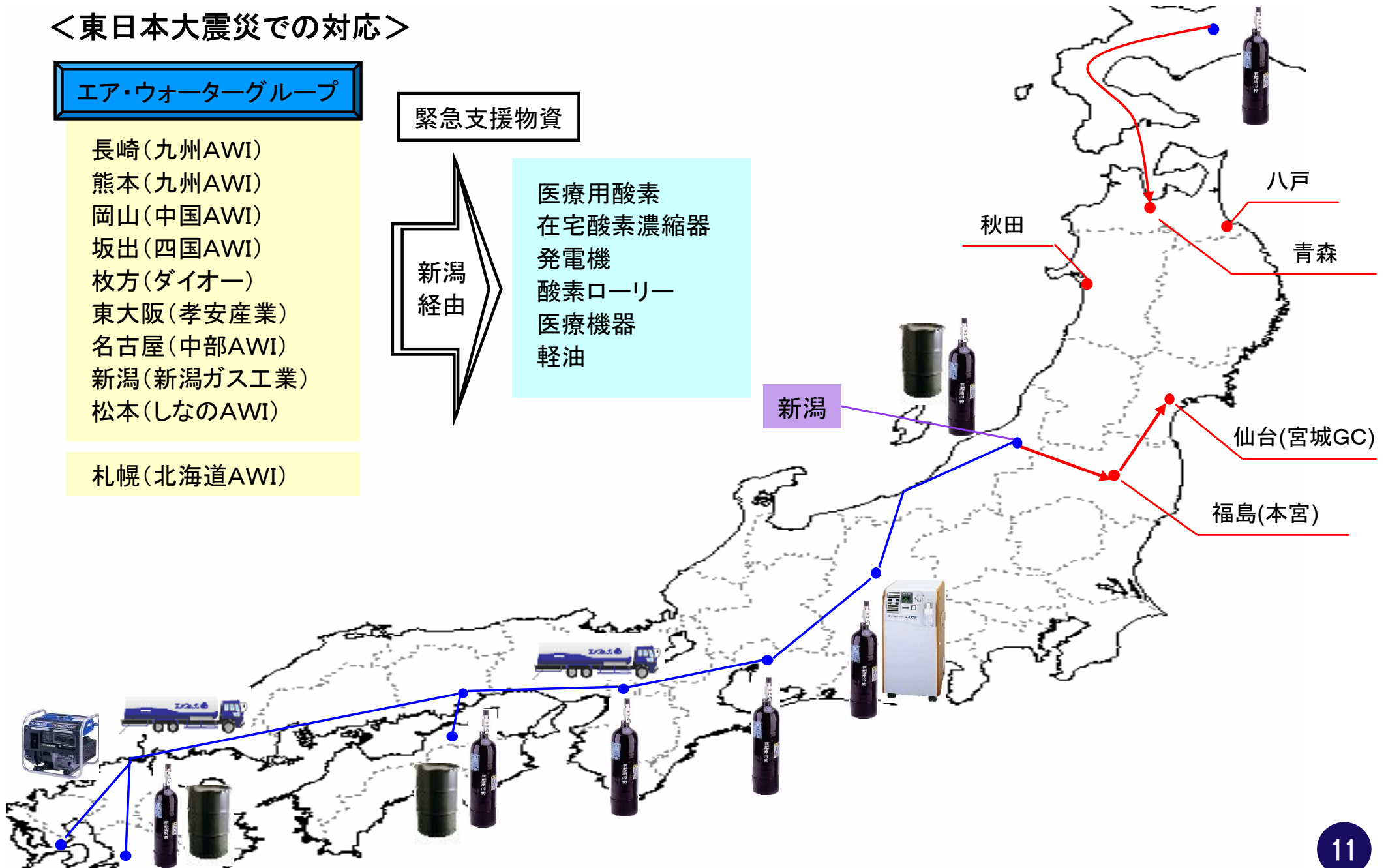
- 長崎(九州AWI)
- 熊本(九州AWI)
- 岡山(中国AWI)
- 坂出(四国AWI)
- 枚方(ダイオー)
- 東大阪(孝安産業)
- 名古屋(中部AWI)
- 新潟(新潟ガス工業)
- 松本(しなのAWI)

札幌(北海道AWI)

緊急支援物資

新潟
経由

- 医療用酸素
- 在宅酸素濃縮器
- 発電機
- 酸素ローリー
- 医療機器
- 軽油



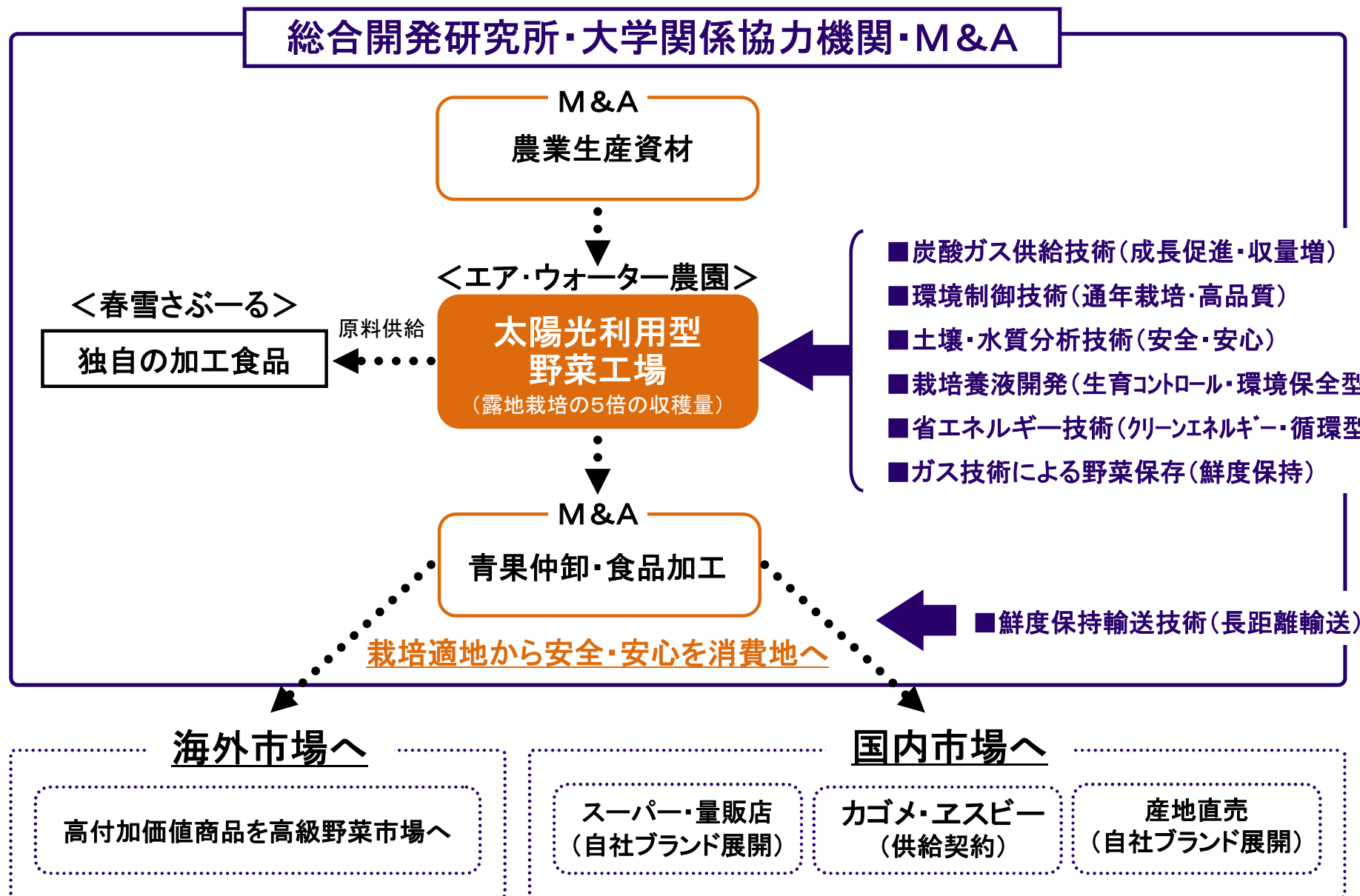
業界ナンバーワン、高シェア・高収益事業のさらなる創造

＜その他セグメントの売上高構成＞

(単位:億円)

	09年度	10年度	11年度	今期の事業見通し
物 流	222	256	317	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅設備機器への3PL事業展開 ・食品物流事業の本州地域での拡大
食 品	166	157	163	<ul style="list-style-type: none"> ・生ハム等主力商品販売拡大及び商品開発力の強化 ・自社ソース工場の竣工・拡販
日本海水	201	188	189	<ul style="list-style-type: none"> ・塩事業は小名浜工場被災により操業停止中で販売減 ・排水処理用高性能吸着剤のリード事業は土壌処理分野へ拡販
タテホ化学	61	69	74	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁鋼板用マグネシア増量、ヒーター用マグネシアの拡販 ・光学用、電子材料用セラミックの市場開拓
海 水	261	258	263	—
そ の 他	316	321	337	<ul style="list-style-type: none"> ・成長分野の人体向けエアゾール製品の強化(AWゾル) ・リング事業の中国市場での拡販、半導体・カスタム分野への展開(AWマツハ)
計	967	992	1,080	—

<エア・ウォーターならではの未来型農業>



<特長>

- 耐高温性能(300°C以上の軟化温度)
⇒ 熱硬化性ポリイミドとエポキシ樹脂の高度な構造制御
- 環境にやさしいグリーン素材
⇒ ハロゲンアンチモンフリーによる難燃化達成(UL規格V-0)

<用途>

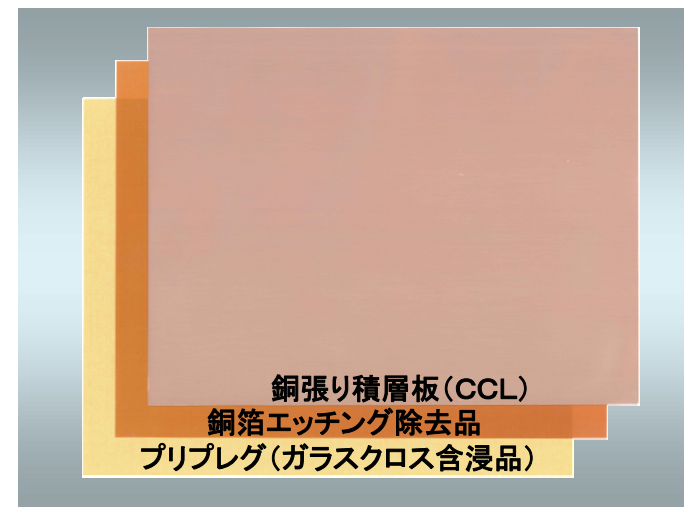
- Cuワイヤボンディングなど

<効果>

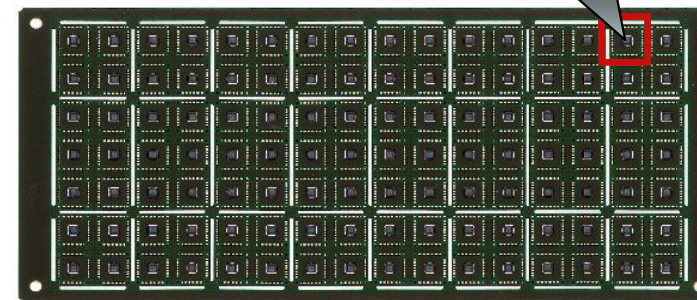
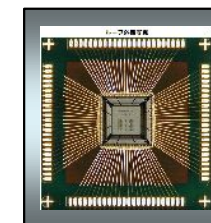
- 高温実装により処理速度が従来の2倍

<従来材料との比較(Cuワイヤボンディング時)>

	BN300GF	従来材料
軟化温度(ガラス転移温度)(°C)	304	250
200°C/常温曲剛性比(%)	80	50
実装可能温度(°C)	200~250	150~170
処理時間(msec)	10	20



BN300基材



BN300の半導体パッケージ例

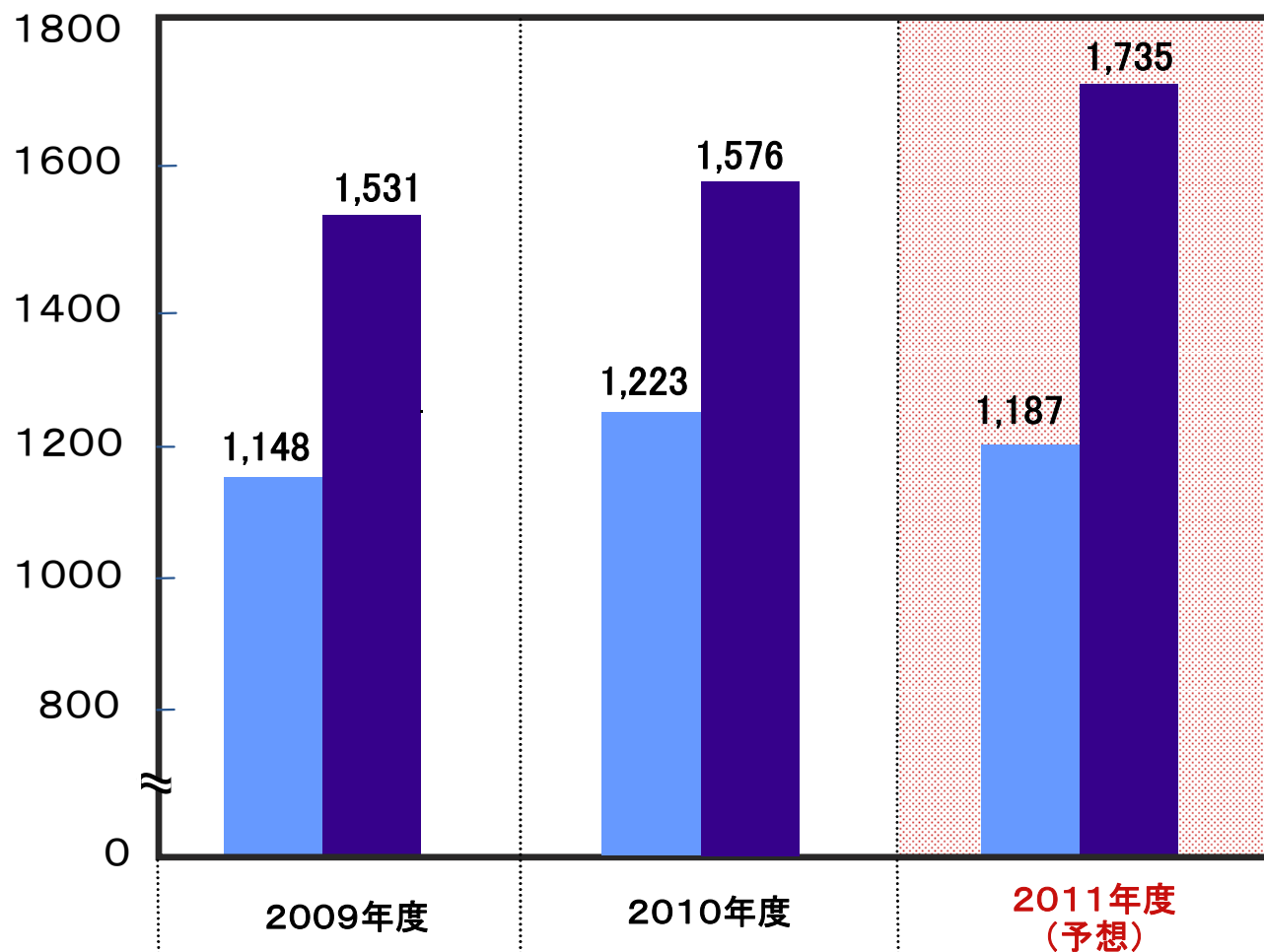
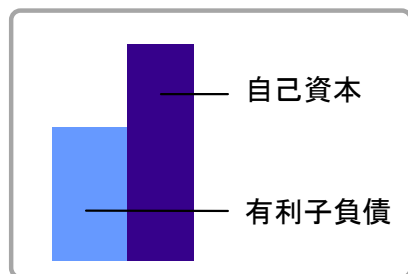
(単位:億円)

		2010年度		2011年度(予想)		2010年度対比	
		実績	利益率	予想	利益率	増減	伸び率
産業ガス関連	売上高	1,309	—	1,325	—	+ 16	101.2%
	経常利益	134	10.3%	130	9.8%	- 4	96.9%
エレクトロニクス関連	売上高	489	—	500	—	+ 11	102.3%
	経常利益	36	7.3%	38	7.5%	+ 2	104.7%
ケミカル関連	売上高	785	—	850	—	+ 65	108.3%
	経常利益	34	4.3%	35	4.1%	+ 0.5	101.5%
医療関連	売上高	669	—	725	—	+ 56	108.4%
	経常利益	44	6.6%	47	6.5%	+ 3	107.2%
エネルギー関連	売上高	476	—	520	—	+ 44	109.3%
	経常利益	27	5.7%	27	5.2%	0	100.0%
その他 (海水、物流、食品ほか)	売上高	992	—	1,080	—	+ 88	108.9%
	経常利益	54	5.4%	56	5.2%	+ 2	104.4%
(調整額)	経常利益	1	—	3	—	+ 2	363.8%
合計	売上高	4,718	—	5,000	—	+282	106.0%
	経常利益	330	7.0%	335	6.7%	+ 5	101.6%

※調整額：各セグメントに帰属しない一般管理費等

自己資本比率とD/Eレシオ

(単位: 億円)



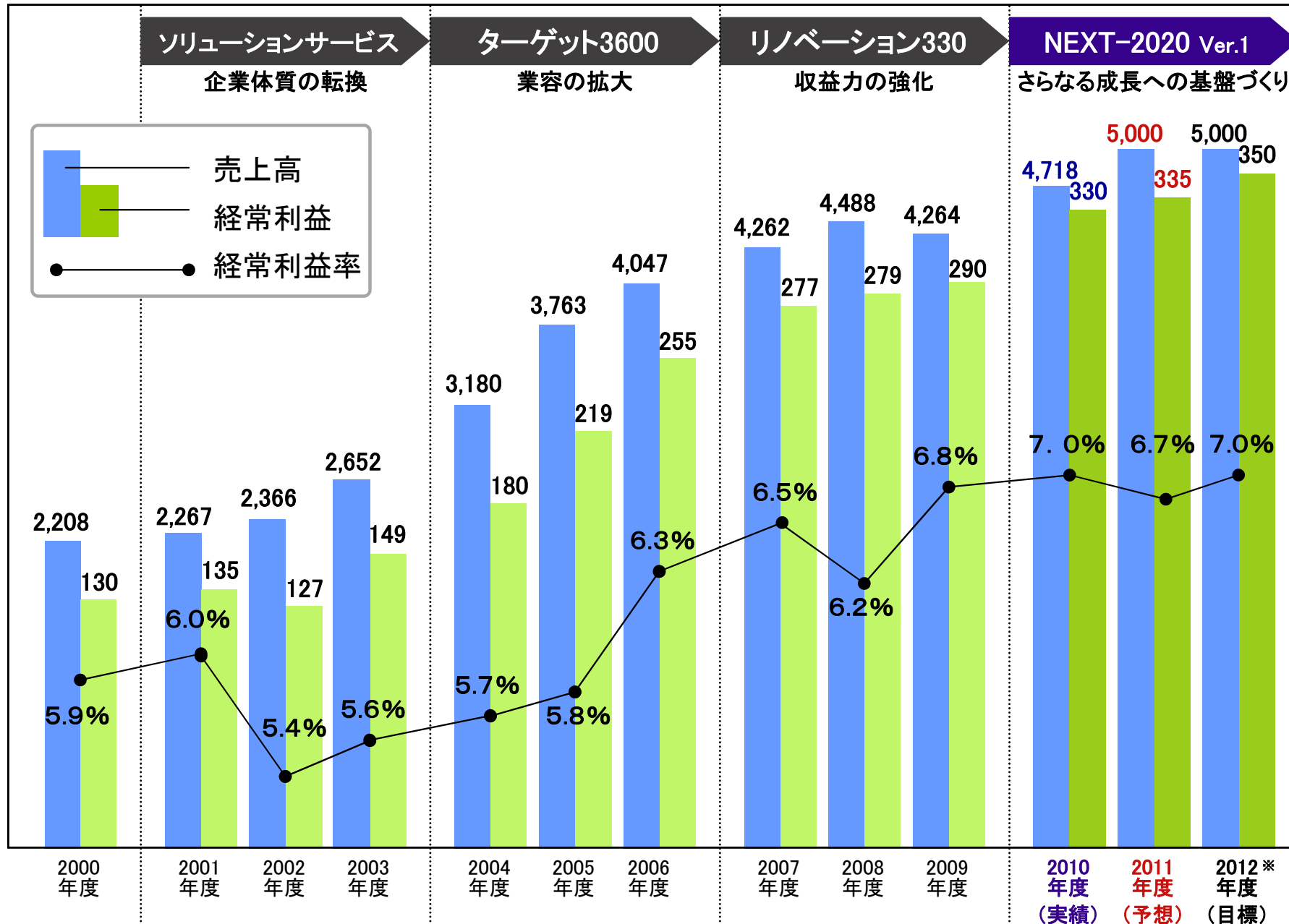
自己資本比率	39.0%	38.7%	41.6%
D/Eレシオ	0.75	0.78	0.68

配当性向目標 : 連結純利益の30%

(単位:円)

1株あたり連結純利益および配当金					
	2009年度		2010年度 (実績)		2011年度 (予想)
1株当たり連結純利益	73.64	➡	61.24	➡	91.26
中間配当金	11.00	➡	11.00	➡	11.00
期末配当金	11.00	➡	11.00	➡	11.00
年間配当金	22.00	➡	22.00	➡	22.00

(単位: 億円)



※2012年度は、2010年3月に公表した中期経営計画の計画数値

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、
現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、
潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。
そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している
将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。